

令和5年度第1回学校魅力強化委員会議事録

開催日	令和5年7月4日（火） 於 白石高校普通科キャンパス会議室
開催時間	15：30～17：30
出席者数	委員11名 事務局5名 教育振興課1名
出席者氏名	委員：江口、内野、藤井、鳴川、浪瀬、喜多、岡、林、上原、門田、溝口 事務局：平山、牧瀬、小川、谷口、野見山 教育振興課：細國
会議次第	1 学校長挨拶 2 学校魅力強化委員会（学校運営協議会）について 3 任命状交付及び委員自己紹介
4 議 事	
<p>(1) 学校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年から令和3年度までの「地域とつながる学校魅力化プロジェクト説明 ・令和4年度からの「SAGA コラボレーション・スクール」の説明 <p>(2) 任命状交付及び委員自己紹介</p> <p>(3) 会長・副会長の選出</p> <p style="padding-left: 2em;">江口英樹会長・内野安成副会長が、承認され、江口会長が議長として登壇</p> <p>(4) 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校状況報告（学校長より） 2) 令和4年度進路状況(結果)について（学校長より） 3) SAGA コラボレーション・スクール事業について（主幹より） 4) 令和5年学校評価計画(主幹より) <p>(5) 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員10) 昨年度も地域と連携したイベントや中高とのスポーツイベントは出来ていたと思うが、その取り組みが生徒募集に繋がっていないのは大きな課題である。地域の少子化が進む中、白石高校を選んでもらうためには、イベントだけではなく、将来の夢や進路実現に繋がっていくような活動を行っていく必要がある。一つの案として、中学校対象の高校説明会などを生徒にさせてみてはどうか。先生方が訪問する説明会とは別に生徒会長などが中学校で自分の高校の魅力を語るのは、中学生側にも刺激になると思う。 ・(委員8) 昨年度からこの委員をさせていただいているが、この活動が魅力化に繋がっているのか疑問である。昨年度もこの会で、白石高校の魅力についてワークショップなどを行ったが、我々目線と子どもたち目線は違う。今後は生徒たちを交えたワークショップなどもやってみたい。（林委員） ・(委員6) 昔（30年前）に比べて白石高校の学力が低下していると感じている。地域との関り方も増えて素直な子供たちが育っているのは感じているが、もう少し学力の向上を目指してほしい。 ・(委員5) 江北町は人口の増減は横ばい。ただし、山手は高齢者が多く人口減、駅周辺は新興住宅地が増えて人口増という二極化しているが。その中で、江北中学校の生徒数減の要因の一つは、県立の中学校や私立の中学に進学していく子供たちが、毎年10数名いること。どのようにしてその子どもたちを地元の中学校へとどめるか、我々教育委員会でも、どのようにして魅力ある中学校にしていくか考えている。江北小学校と江北中学校の義務教育学校に改編する検討もなされている。 ・(委員7) これまで、大町町のイベントに白石高校の多くの生徒に関わっていただいていると思っているが、資料には「生徒たちが主体的に活動できていない」と書かれている。一 	

部の生徒しか参加していないということか。それとも教員がお膳立てして活動させているからなのか。

- ・(学校長) 高校魅力化評価システムのアンケートの結果でこのように出てきた。生徒の中でも分かれているのかもしれない。
- ・(委員3) 高校説明会で普通科が中学生にアピールするのは進学についてだと思うが、中学生にはあまり刺さらないと思う。佐農や嬉野高校などは実業系なりの魅力をどんどんアピールしているが、普通科ではそのようなことは難しい。他校では、「ようこそ先輩」という企画で、大学に進学した先輩に来校してもらって、高校3年生と直接疑問などに答えるという活動を行っている。そのようなことを、中学校へ行って生徒が行ったほうが、先生方がお話しするより中学生に伝わるのではないかと思う。
- ・(委員9) 白石高校の生徒はとてもおとなしく、素直な生徒が多いが、個別に話を聞いてみると、ちゃんと意見を持っていたりする。オープンキャンパスなどはやられているかと思うが、生徒たちが自分の学校の良さを中学生に伝えるのも良いと思う。不本意ながら選んだ生徒たちもいると思うが、その中でも「こういうところを頑張っている」「こういうところが魅力なんだ」という生徒の言葉を中学生に伝えることが良いのではないか。
- ・(委員9) 先日行われた地域連携講座の際に、担当の先生に生徒さんがどのように講座を選ばれたのかお聞きしたところ、学校側が振り分けたとお聞きして少し残念に思った。せっかくそのような機会を設けるのであれば、多少の人数の差が出たとしても、生徒さんの興味がある講座に行けるようにしてあげた方が、生徒さん自身が魅力を感じるのではないか。
- ・(委員9) 学校の魅力を発信していくのであれば、生徒がこの高校を魅力的だと思わないと難しいと思う。生徒を巻き込んで進めていくことが良いと思う。その力を子どもは持っていると思う。
- ・(委員4) 活動実績をみる限り、地域と一緒に活動をやっているようだが、地域が上に来ていて、生徒主体には感じられない。生徒たちが中心になって活動すれば魅力の発信に繋がっていくのではないか。
- ・(委員4) 今の高校生は結構考えて学校を選んでいると思う。インターンシップなどで来る高校生は、「将来のこの職業に就きたいからこの学校を選びました」などと、ちゃんと進路を考えて学校選びをしているようでした。勉強はどこに行ってもできるが、最終的に働くことに繋がっていくと思うので、その知識をいかにどうやってつけるかだと思う。そういったアピールをしていくことで、在學生や中学生の魅力に繋がっていくのではないか。
- ・(委員2) 普通科の高校は学力や部活の成果など目に見えるもので訴えていくのだが、県が全体のグランドデザインとして中高一貫の学校を作ったり、私学の中高一貫校が進学実績を出していたりしている中で、県立高校が全県募集となると、差別化が難しくなってくる。自分の学校が持っている独自性や特色を、生徒自身に実感させないと、「やらされ感」で何かできたとしても、それは根づいていない。生徒たちにとっても「満足できたとは言えない」というアンケートの結果になると思う。いろんな地域での活動が、その子の進路の選択や3年間の学びの中にどう位置づけされていくのか、例えばマルシェなどの活動が自分の生活や進路選択にどう結びついているのか、ということを感じ込んでいかないと、満足感につながらないのではないか。
- ・(委員2) 短期大学の募集に関しても先生側がPRする部分と生徒がPRする部分に大きな差があるので、今後もし生徒にPRさせる場合は自分の母校の中学校などに派遣してでも、内側からアピールするということも必要になってくる。
- ・(委員2) いろんな行事を各個人の達成感や生涯学習に落とし込んでいくときに課題になってくるのは、吸収したものを、3年間でいかに自分のものとして根付けていくか、結び付けていくかということだと思う。小城高校では「オンリーワン授業」という、3年間の

学びの成果をプレゼン発表する活動を総合的な学習の時間にやっていた。せっかく組み立てている各授業の中で、自分の学び取ったものを蓄積していった、自分の進路選択にどう結び付けて落とし込むかということが非常に大事だと思う。各地域との活動に参加した後にも、今回の活動で学んだことは何か、どんなところに活かせるかなどを、生徒自身に考えさせてあげる指導が必要だと思う。

- ・(委員 2) 2つのキャンパスの統合でかなり苦勞されていると思うが、2つのキャンパスのそれぞれの学びや部活動、友人関係など、それぞれのいい部分を活かしてもらえればと思う。両方の学校が作り上げてきたものが活かされて統合されていけば、これほど地域にとっても、県にとっても、ありがたいことはないと思うので、今回のような委員会など、率直な意見を述べる機会を増やしていければ良いのかなと思う。その中に生徒たちのアンケートや生の声を組み込んでいければまた良いのではと感う。
- ・(委員 1) 昨年度 CN はじめ地域と関りをもっていた。これだけの事業を動かしてきた白石高校は確実に大きな一歩を踏みだせていると思う。
- ・(委員 1) 今年度の活動として今回たくさん良いキーワードが出てきたところを、どう繋げていくかということであるが、生徒の主体性とやりたいと思っていることをどうやってやらせてあげるか、発信とかプレゼンを如何にして生徒自身が次に入ってくる生徒に生徒自身が発信することが出来るか、そうすることで自信にも繋がる。そこが主体性にも繋がっていく。生徒自身の魅力を上げることは、白石高校の魅力に繋がっていくのではないかと思う。
- ・(委員 1) 地域の人間からすると、地域とは小中学校の生徒が(高校生以外のこどもがいる場所) 尚且つ小中学生の子供を持つ親がいる場所、まさに白石高校からすると「お客様」がいる場所だと思う。そこに積極的に生徒が出て行って、生徒自身がやりたいことを企画し、活動していくことで、その姿を子どもたちやその親に伝えることができる。それが「地域」なのだということを意識して取り組むことで、今までは地域に出ていくことが大事だったが、次目指す場所は白石高校の良さを子どもたちに伝えられる取り組みを織り込んでみるとよいと思う。例えば今回こどもくんに参加してくれる生徒は商業科でプログラミングの授業を受けている生徒さんだと聞いているので、こどもたちにプログラミングを利用してドローン飛ばすなどみせてあげると、小学生から見ると純粋に「白石高校の生徒はすごい」と思えるとおもう。生徒自身が、「地域とは学校の魅力を伝えていく場なんだ」という意識をもって、「地域に営業に行く」ぐらいの極端な発想で、地域で活動していくのが良いのではないかと思う。親(大人)に向かって自信を持つことは難しいが、小学生中学生に対しては、自信をもつことはできると思う。自分の学びのため地域に出ていくのだという意識を持つことによって、コラボレーション・スクールとはどのような活動なのかを位置づけできるのではないかと思う。

(6) 部会編成

- 1) 学校評価部会：江口様・内野様・藤井様
- 2) 地域連携部会：林様・上原様
- 3) 小中校連携部会：浪瀬様・岡様・門田様
- 4) 広報・情報発信部会：鴨川様・喜多様

事後措置	朝礼時報告	○	職員会議にて報告	校内 LAN にて広報	職員向け配布物機を利用して広報する。
	その他 (学校 HP に掲載)				